

2020年度 環境活動報告

環境行動実績

※対象範囲：(株)日立物流及び国内連結グループ会社(20社)。

No	目的	行動計画	2020年度 注1)		
			目標	実績	
法令の遵守(条例等を含む)					
1	地球温暖化防止	「建物」の「延床面積当り電気使用量」の削減	2018年度実績比2%削減	8.3%削減	
2	資源循環促進	廃棄物等排出物の適正管理	処理等の確実な推進	左記を実施	
3	管理レベルの向上	上記以外の環境法令の遵守	フロン・PCB・浄化槽・自動車等の関係法令・条例への対応	同上	
環境負荷の低減					
4	地球温暖化防止	「車両」の車種別燃費向上(CO ₂ 排出量低減)(走行距離/燃料使用量)	2018年度実績比+2%	2.3%減	
		CO ₂ 総排出量、グループ合計	—	5.6%減	
		2020年度CO ₂ 総排出量:112,995トン、建物の延床面積当りCO ₂ 排出量:19.6kg/m ² (CO ₂ 総排出量本部Gr別内訳) ①東日本営業本部Gr:36,296トン ②首都圏営業本部Gr:12,908トン ③中部営業本部Gr:10,519トン ④西日本営業本部Gr:23,527トン ⑤本社管轄:24,376トン ⑥その他Gr会社:5,369トン			
5		LED照明設備の導入推進	新設建屋へのLED照明への全面採用。 既存の蛍光灯、水銀灯からの切り替え。	左記を実施	
6	資源循環促進	廃棄物の再資源化率向上 注2)	99%	99%	
		(グループ合計) 2020年度廃棄物発生量:29,533トン(廃棄物発生量本部Gr別内訳) ①東日本営業本部Gr:9,831トン ②首都圏営業本部Gr:1,313トン ③中部営業本部Gr:3,238トン ④西日本営業本部Gr:8,870トン ⑤本社管轄:4,345トン ⑥その他Gr会社:1,936トン			
7		水使用量の原単位低減 注3)	床面積原単位を前年度実績比1%以上抑制	6.1%減	
		(グループ合計) 2020年度水使用量:306,770m ³ (本部Gr別水使用量内訳) (本部Gr別水使用量床面積原単位内訳) ①東日本営業本部Gr:111,830m ³ ①東日本営業本部Gr:0.086m ³ /m ² ②首都圏営業本部Gr:30,636m ³ ②首都圏営業本部Gr:0.072m ³ /m ² ③中部営業本部Gr:18,426m ³ ③中部営業本部Gr:0.056m ³ /m ² ④西日本営業本部Gr:71,709m ³ ④西日本営業本部Gr:0.081m ³ /m ² ⑤本社管轄:35,702m ³ ⑤本社管轄:0.067m ³ /m ² ⑥その他Gr会社:38,467m ³ ⑥その他Gr会社:0.182m ³ /m ²			
8		グリーン購入率の向上 注4)	85%	88%	

9		モーダルシフトの推進	新規顧客/新規ルートの開拓推進	食品の鉄道モーダルシフト等の実施。 注5)①
10		共同輸送の推進	プラットフォーム化、配送拠点集約等、輸送効率化の積極的な推進	左記を実施
11	物流サービスの環境対応強化	脱プラスチックに向けた環境対応の促進	リデュース、リターナブル、リサイクル、自然環境に拡散しない方法での廃棄等	左記を実施
12		より環境性能に優れたエコカー 注6) (最新型エコカー)への代替	(エコカー比率) 100%	100%
			(最新型エコカー比率) 98%	97%
13		エコドライブの継続推進	燃費向上目標(前年度比1%向上)をフォロー・改善	左記を実施
14	生物多様性と生態系の保全	森林資源の保護	コピー用紙使用量を前年度実績比1%以上抑制	±0% (A4換算使用量)
教育・コミュニケーション促進				
15		VC21と連携した環境活動の充実	VC活動に環境を意識した活動の落とし込み	左記を実施
16	環境コミュニケーション促進	環境に関する社会貢献活動等の推進	社外清掃活動等への積極的な参加 ライトダウンの実施(年2回)	事業所周辺・地域の清掃活動への参加、夏至/七夕のライトダウン、グリーンカーテン設置等
17		環境広報活動の充実(情報開示と発信の強化)	環境関連表彰への応募、環境広告宣伝、情報開示等	社外表彰6件受賞 注5) 社外HPへの情報開示
18	環境意識向上	「環境e-ラーニング」受講率	99%	99.5%
環境マネジメント				
19		「環境重点テーマ」設定による環境活動の促進(1回/期)実施	やらされ感→わたくしごと化へ(VC21の概念)	左記実施 (184拠点)
20		「省エネ点検表」による運用改善の推進(1回/期)実施	照明・空調の運用状況を確認し、一層の改善の推進	左記実施 (169拠点)
21	環境管理レベル向上	環境負荷実績データの管理と精度向上 ・環境負荷調査システム活用による管理レベル向上[国内] ・拠点別負荷調査の確実な実施[海外]	エネルギー使用量、廃棄物量の環境負荷データの確実な把握	左記を実施
22		環境・車両管理の自己監査充実	本部部門やGr会社による計画実施	左記を実施

注1) 日立物流グループ連結ベースの目標値と実績を記載。

注2) 再資源化率=(再使用量+再生利用量+熱回収量)/総排出量

注3) 水使用量床面積原単位(水使用量/床面積)

注4) グリーン購入率:e-sourcing MALL(電子購買システム)にて購入した事務用品の内、エコ製品の比率。

注5) 社外表彰案件

① 令和2年度モーダルシフト取り組み優良事業者賞「有効活用部門賞」、2件受賞

(一般社団法人日本物流団体連合会主催)

件名1: 全国向け、食品の鉄道モーダルシフトの継続実施

件名2: 関東~九州の大動脈輸送の継続的なモーダルシフトの推進(全国向け、自動車部品の海上輸送)

② 第21回物流環境大賞「物流環境特別賞」受賞(一般社団法人日本物流団体連合会主催)

件名: 「新型専用輸送コンテナ開発による再生資源廃棄物輸送モーダルシフト化の輸送効率化への取り組み」

③ 日本パッケージングコンテスト「経済産業省製造産業局長賞」「適正包装賞」「大型・重量物包装部門賞」

トリプル受賞(公益社団法人日本包装技術協会主催)

件名1: ワンウェイ段積治具「経済産業省製造産業局長賞(ジャパンスター賞)」

件名2: 新型サイクロン(掃除機)の適正包装「適正包装賞」

件名3: アジャスター着脱式緩衝材「大型・重量物包装部門賞」

注6) 最新型エコカーの種類: 天然ガス車、ハイブリッド車、電気自動車、LPG車(併用車を含む)、

国が認定している「低燃費車(H27年度燃費基準達成車)」「低排出ガス車(H17年度規制車)」、

「ポスト新長期規制適合車(H28年度規制車)」、燃料電池車、バイオ燃料車。